

DOYU

I W A T E

11
Nov.

2023
Vol.173
同友いわて

「この地域を愛する想いは

誰にも負けない!」

(一社)カタル

代表理事

藤岡

裕子氏

社員 細谷 真貴子氏

よい会社をつくらう。よい経営者にならう。よい経営環境をつくらう。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

「活き生き企業訪問記」

「この地域を愛する想いは誰にも負けない！」

（一社）カダル 代表理事 藤岡 裕子氏



（二社）カダルはJR矢幅駅の東口で「矢巾町地域情報ステーション」として、地域の情報発信や物販などを運営しています。主に、広報活動支援事業では、ラジオ番組の制作や企画「icottor」と、町を豊かにする賑わい支援事業として地元学やワークショップなどの企画「ハバターク」の2つの事業で、毎日約2、700名余の矢幅駅を利用する人たちを迎えるオアシスの役割をしています。

自分の生活圏を広げるお手伝い

代表理事の藤岡氏は盛岡生まれの盛岡育ち。大学入学をきっかけに上京。卒業後はたくさんの仕事を経験後、岩手に戻り矢巾町の地域おこし協力隊として移住しました。

その後、「せっかくこの仕事で出会った人たちとこれからも関わりあいたい」と思い、「地域に住む方々がご自身で生活圏を広げてほしい」というそのお手伝いのために2021年にまちおこし支援会社、一般社団法人カダルを立ち上げました。「カダル」という名前は語り合う・話そうなどから、誰でも気軽に寄り語り合う場であってほしいという思いです。

勘違いだらけのスタート

当初立ち上げの頃は、「法人にすれば仲間がいて安心。」

「一人でやるより多くのことができる。」「会社・法人の方が信頼を得られる。」「商工会、青年部など地域につながりがあるから大丈夫。」など自身自身で勝手な自信と安心感を持っていました。

もっとそのためには経営を勉強しなければと同友会に法人立ち上げと同時に入会し、「第15期人を生かす経営・経営指針実践塾」を受講しました。しかし、経営も全く分からず、何のために経営するかを問われれば、問われるほど辛くなり何度も辞めようかと思うほどでした。

理念と覚悟を「強有」し続けた1年目と2年目

そしていつの間にか、せっかく頑張って理念をつくったので絶対失敗はできない気持ちになっていました。また「実践しなければ」という焦りから自分だけ走りまわって業務をこなしていました。結果、社員から不安と不満の声があまり「もう藤岡さんにはついていけない！」と退職してしまうという事がおきました。更に2年目も新しい社員を採用して結局2か月で退職。さすがにどうしていいかわからなくなり暗黒の2年目を過ごしました。

すべて社員のせいと押し付けていた自分だった

自分は必死なのになぜ社員は皆辞めてしまうのか。そんな中、同友会の経営実践塾の実行委員として参加し、自身にも「何のためにスタートしたのか」を再度問い続けながら、ひたすら自分の本質と向き合うことを始めました。そこでこれまで起きたことは「社員の不安や不満と向き合うことから逃げていた自分」「うまくいかないのは全部社員のせいと責任を押し付けていた」ということに気が付いていきました。

徹底的に社員目線で向き合う

そこから、心新たにスタートを切ることを決意します。新しく迎えた社員は「このまの力になりたい」と、矢巾町の臨時職員だった細谷真貴子氏です。細谷氏と20代の若手のアルバイトと新規スタートしました。これまで何でも自分で動いていたことから大きく変え、月次会計の開示と月別計画表の共有、週に1回社員のミーティングを掲げ実行しました。すると社内は大きく変わ



り一人ひとりが一生懸命に課題に向き合いたくさんの意見を言ってくれるようになりました。

このまちに恩おくりをするのが私の使命

「この3年間の歩みの中での変化は、この町で生きていくことは社員を守ることだということに気づいたことです。そして決して逃げずに向き合う事です。」と藤岡氏は話します。

「いわてを元気にする仕事」に出会って、そして、自信のない自分への挑戦を後押ししてくれ、救ってくれた矢巾町。これからも藤岡氏はそんなまちに恩送りをするため、この地に触れた人が「このまちでよかった」と思えるまちを守り、その輪を広げられるように全力で取組んでいます。

支部・地区通信

支部幹事一致団結！ ゲスト、会員企業訪問デー開催

盛岡支部

盛岡支部は11月22日（水）開催の第21回経営研究集会の設営を担当します。そこで参



加目標230名のため、よりたくさんのゲストと会員参加を呼びかけようと、9月22日・27日の両日それぞれの地区に分かれゲスト・会員訪問を行いました。

20社のリストが 訪問意欲に繋がる

当日はリストアップした20社を片手に研究集会のチラシと増強資料を持って取引先の企業を事務局と一緒に回る地区、2名一組でタッグを組み取引先企業、知人、地元の企業などを訪問する地区など方法はそれぞれです。訪問先ではチラシを見て「この分科会は聞いてみたい」「社員も参加させたい」などの声があがる一方で「今、こんなことで悩んでいるんだよね」「それなら同友会で一緒に学ばない」と資料を広げて見せるなど話題が広がる場面もありました。終了後は参加幹事が事

務局に集まり「良い反応があった」「必ず参加すると約束してくれた」とにこやかに報告され、「最後まで後追いしよう」と2日間の訪問を終えました。

突撃訪問は まず「作戦会議」から

翌月10月4日は県央支部が矢巾町流通センター内の会社を中心に、「突撃！流通センター企業訪問&会員訪問」を行いました。朝9時に矢巾町の信幸プロテック(株)に幹事が集合し住宅地図を開きながら作戦会議。「せっかくの訪問だから、地区を2つに分かれて訪問すればよりたくさんさんの企業に経営研究集会の案内ができるよね」「そういえば、最近〇〇さんどうしているかなあ；ぜひ地域の会員企業にも案内しよう」などと打ち合わせをしてスタートしました。

緊張した初めての 訪問企業、 でもやってよかった！

今回初めての企業突撃訪問でしたが、川村地区会長から「自分は飛び込み訪問が本当に苦手で最初はどのような事か



と思ったが、訪問した皆さんはとてもまじめに我々の話を聞いていただき、この思いを伝えることが大事なんだと実感した」村松直子幹事からは「普段、仕事関係で取引はあったものの、実際お邪魔したところのない会社もたくさんあった。会社を訪問すると本当に色々なことを感じ、知ることができると報告後、昼食をとりながら報告会となりました。今後も県央支部では、訪問地区を変えながら訪問デーを実践していく予定です。

県北支部

ゲストから次回開催の期待の声があがった 葛巻例会

県北支部9月例会が9月8日（金）、グリーンテージくずまきで開催されました。県北地域は広範囲に渡るため、葛巻では昨年12月の開催以来の久方ぶりの例会開催でしたが、当日は予定を遙かに超える16名が参加し、ゲストを交えて盛り上がった例会となりました。

今回の例会開催の準備では、事前に報告者の(株)松原農場 松原宏樹氏と座長の遠藤考則氏（(株)ビルド遠藤 代表取締役）、室長の前野嗣郎氏（前野モーターズ代表）がオンラインで打ち合わせを重ね、万全の体制で当日を迎えました。

松原氏から「まずは自分が行動すること」〜思い続けるだけでは解決にならない〜をテーマにご報告戴きました。松原農場の立ち上げから手作りアイスクリーム牧舎松ぼっくりの開業、今後後継していく上での展望まで、現在のご自身の立ち位置も含め、率直に思いをお話いただきました。

次も葛巻で 本音で語り合いたい！

初めておいでになった畜産業を営むゲストの方からは、「経営の勉強をしたいと思って参加したが、グループ討論での本音の意見交換に驚い



た。このあと懇親会があればもっともっと深く話したい」との声があり、次回牛舎の見学も兼ねて会社訪問をすることが決まりました。

また後継者のゲストの方は、「引き継いだばかりで目の前の忙しさに一杯になっていた。今日経営指針の話聴いたが、自社でも計画を作成したいと思った。ぜひ次回も葛巻で開催してほしい」など、初めて参加した方からも次回へ向けての期待の声があがった例会となりました。

岩手リアス支部

初めての「社員による
社員のための」
ランチ例会開催！

岩手リアス支部 社員ランチ交流会

9月26日（火）、岩手リアス支部の初めての社員ランチ交流会が、陸前高田市のおかず屋和笑輪・みんなの家で開催されました。これまで新入社員として入社しても周りに知り合いがおらず、地域のなかで、日頃顔を合わせる機会はあっても、他の会社だとなかなか互いに話す機会がありま

せんでした。「経営者は地元の例会で学ぶ機会があるのに、社員にないのはおかしい」と河野通洋支部長（㈱八木澤商店代表取締役）が提起し、八木澤商店社員の加藤千晶氏、橋勝商店社員の小野寺愛氏、陸前高田ドライビングスクールの古澤氏が発起人になり、準備を重ねてきました。

美味しいランチを とりながら 夢を語り合う

当日は5社から社員7名が参加。慣れない雰囲気の中で自己紹介に始まり、最初は緊張して言葉が出なかった社員からも、おかず屋和笑輪の特別ランチプレートを食べながら、地元の話題やそれぞれの出身に関するさまざまな話に花が咲き、次第に笑顔がはじまりました。昼食後、体験報告に立った小野寺愛氏は、入社後の経緯からこれまで、毎日店に立って思うこと、これから夢など、自分で作ってきたメモを見ながら思いを存分に吐露しました。

参加社員の笑顔
から次回も
開催決定！

質問や感想では、先輩社員から「今しかできないことをやるべき」「頑張れ！応援しているから」などの声があがりました。「話しづらいだろうから」と席を外した社長は何のことかわからないながらも、帰り際の皆さんの雰囲気を見て、安心した表情で見守っていました。終了後の



話し合いで今後も定期的に開催することが決まりましたが、支部の幹事会で毎回経営者にも報告し、情報を共有しながら進めることになりました。次回は11月にやぎさわカフェで開催予定です。



第17期人を生かす経営・経営指針 実践塾発表会

初めての花巻開催

第17期人を生かす経営・経営指針

実践塾の発表会が8月4日、グランシエール花巻で行われました。これまで盛岡での発表会開催が通例でしたが、総勢40名を超える参加で初めて花巻で開催されました。

4月から約5ヶ月間、毎月の講義や検討の機会を重ね作り上げた経営指針書をもとに、7名の受講生が発

の文を披露する特別の発表の機会となりました。

実践塾を先導した経営労働委員長
の川村武司氏（杜陵テクノ（株）代表取締役）は、「今日は大変めでたい日ですが、経営指針は実践が何よりも重要です。社員といかに理念を共有し、日常の経営に血肉化していくかはこれからが本番です。毎日の薄紙を重ねるような実践しかありません。今日をスタートにこれからも一緒に学び続けて参りましょう」と挨拶。受講生の今後の修了後の実践にも期待を込めたメッセージが贈られました。

また同時に次期、第18期へ向けた準備も始まり、これまでに修了された受講生もこれから受講される方も併せて参加できる、財務に関する基礎講座について、今年12月から始まる予定であることも発表になりました。

経営指針を創る会に始まり、今回の第17期人を生かす経営・経営指針実践塾まで、100名を超える受講生がこれまで卒業しました。次年度はより実践に即した年間を通じた学び合いの場を予定しています。どうぞ今後の経営労働委員会にご期待ください。



北海道・東北ブロック支部長・ 地区会長交流会 in 山形

魅力ある支部・地区会づくりと
地域づくりのために学んだ2日間

9月21日（木）～22日（金）に山形国際ホテルにおいて「2023北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会 in 山形」が開催され、計103名が2日間学びました。

同友会活動と自社経営は常に一体

1日目の事例報告として山形同友会から「山形同友会の組織強化と支部づくり」をテーマに、副代表理事阿部秀顕氏（山形ビックファーム代表取締役）から、同友会活動と自社経営を一体とし、次の支部長・委員長・部会長を育て、バトンを渡していくこと。そのため各組織の情報と課題を共有して行動する取り組みが大切であると報告されました。次に、山形支部長の服部正氏（有山形商美社 代表取締役）からは、支部長経験者が伴走支援する体制で、長期的に課題解決に取り組み企業訪問チームをつくり、特に新会員やゲストには手厚くフォロー、その結果会員増にもつながったと報告されました。

100年企業のレボリューション

2日目は「柔軟な思考力でビジネス

モデルを変革した事例、ダイバーシティ経営による伝統企業の改革―山形からめっきでレボリューション―と題して鈴木一徳氏（スズキハイテック（株）代表取締役社長）より100年続く5代目として危機感を持ち、ダイバーシティ経営に取り組み、受注型から開発提案型のビジネスモデルに転換してきた経営実践を報告されました。

今回の2日間の学びを岩手同友会でもしっかりと生かし、自社、支部地区に落とし込み実践していくこと改めて学んだ交流会でした。



懇親会で研究集会のPRする中村実行委員長

2023 新入社員 フォローアップ研修会

これまで最大総勢47名での大研修会

「自分とどう向き合い、
未来をつくるのか」

9月28日(木)新入社員フォローアップ研修会がアイーナで行われました。

当日は新入社員24名、実行委員23名、総勢47名が参加しての研修会になりました。



最初に下村社員共育委員長(株)エムデザインまごころみるく 代表取締役)より

「入社した時、緊張しながらも新鮮な気持ちでスタートをしたと思いますが半年が経ち新たな不安や気づきも出てきたのではないのでしょうか。

でも目的を持つことで仕事の向き合い方が変わります。もう一度『何のために仕事をしているのか』を考えていただきたいと思いますが。皆さんと一緒に、今日の研修が学びの多い充実した一日にしたいと思います。」とあいさつがありました。

昨年に引き続き「気づきと学びのシート」を使用し、講座ごとに記入作業をしながら進めていきました。

第1講は「入社からの振り返りと現状認識」として、東北酸素(株) 代表取締役 千葉



厚氏より「第1講は半年の振り返りの時間になります。4月の研修の時に色紙に書いた『一つの大事』を思い出して下さい。皆さんどう取り組みましたか。入社する前とした後では「働くイメージ」が変化した方もあると思います。自分は何を目指して今の職場を選んだのかこのシートに記入し、もう一度考えて欲しいと思います。」と問題提起がありシートでの記入作業の後、グループ内で発表を行いました。

自分の夢や未来を描く
ために今の環境に
どう向き合うか

第2講は「あなたが未来に実現したい夢」について、(株)麴屋もとみや 代表取締役 本宮啓氏より「今うまく行っている方、そして壁にぶつかっている方もいると思いますが、生きていく中で何かにぶつかることが出てくると思います。私も大学を卒業後、就職し、仕事をしていく中でうまく行った時は自分の内側に理由があり、失敗や壁にぶつかった時は自分の外側に理由を求め、自分に合うことができず新たな環境だけを求めています。でも自分の近くには相談ができる人や仲間がたくさんいます。今の環境にどう向き合っていくかで自分の夢や未来が描けるのです。自分の変化こそ環境を変えていけると思います。これから皆さんと一緒に成長していければと思います。」と自身の経験をもとに半年たった皆さんに考えて欲しいこととしてお話しいただきました。



(右)いわてにつかコミュニティ企画 村田真理氏

一人で悩まず、
まずは相談をすること

第3講は先輩社員からの体験報告を、入社3年目の(有)いわてにつかコミュニティ企画 村田真理さんより報告していただきました。入社から現在も児童デイサービスで働いていますが、入社を決めた理由は専門学校時代に障害について学んだことと誰かの役に立ちたいそんな思いがあり入社しました。児童デイでは、小学生から高校生までが学校の授業を終えてから過ごしてい



ます。入社当時はなかなか自分から子供達に話しかけることができず、どう支援していいのかかわからず悩むことや職場での人間関係でも悩んだ時期もありました。しかし、そういう気持ちを引きずったまま翌日を迎えたくはないという思いがあり、職場の先輩方に話を聞いてもらいました。そうすることで気持ちの切り替えをすることができました。「入社し3年が経ち経験を積むことで悩みも少なくなりました。今までは相談する側でしたが、一緒に考える時

間も増え、悩んでいるのは自分だけではないと思えるようになり、楽に仕事ができるようになった。と明るく話す村田さん。今では障害の有無に関係なく子供たちが成長していくことを日々感じながら、「楽しそうにしている姿を見るのが好きで『幸せ』を感じています。悩みは人それぞれですが、一人で悩まず誰かに相談することで仕事も楽しくなると思います。」と一人で抱え込まずに相談することの大切さをお話いただきました。

最後の第4講は「社会人としてのマナー応用編」を岩手同友会 菊田哲事務局長より、講義をしていただきました。半年たち電話や来客の応対も次第に増えてきたことで、あらためて電話応対の実践練習と来客案内を応接室・会議室・事務所内での場合を想定し、どこに席に案内するのか。また車に乗せる場合の位置について全員で確認しました。半年が経った今だから、マナーの大切さを実感する第4講になりました。



未来をつくるのは自分自身

最後に、(株)平金商店 代表取締役 平野佳則氏より「一日、一日を積み重ねてきた結果で現在があり未来があります。未来をつくるのは自分自身です。起きている事実の捉え方次第で皆さんの人生が変わっていきます。それをどう捉えるかは皆さん一人ひとりです。どうぞポジティブな人生を送って下さい」と総括のまとめをしていただき、新入社員フォローアップ研修会を終了致しました。



素心知困

「盛岡を好きになってください！」の盛岡新市長の挨拶からスタートした今年の盛岡マラソン。三回目を迎える今年の大会運営は実に見事なものでした。▼岩手大学を出発点に始まった2019年の第一回目は、九千人もの参加でしたが、初めての開催ということもあり、仮設トイレやバス移動などでも動線がちぐはぐ。沿道の声もどこか恥ずかしげな雰囲気でした。▼コロナで中止が二回、そして昨年に引き続き岩手公園をスタートに御所湖を折り返し中央公園に到達するフルマラソンは、箱根駅伝を一日で満喫できるようなコースに参加者は大満足。そして何よりも「おもてなし」に心揺さぶられました。▼「来てくれてありがとう」と。走ってくれてありがとう。自然に出る沿道からの声援。地域も企業も文化は掲げた理念に向かってゆっくり醸成されていくのだと。サンガラスの奥が熱くなっていた一日でした。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同志会ホームページをご利用下さい。www.iwate-doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

めだか

有限会社いわてにっかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援 B 型

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

**オリジナルラベル
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自醸ワイン **紫波** 社名ロゴ 包装、のし無料 12本以上 作成無料
岩手県産酒類100%

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/mobile

「企業変革支援プログラム ver2」

自社の立ち位置を明確にして
社員とともに目指す企業像

「企業変革支援プログラムステップ1」「企業変革支援プログラムステップ2」を1冊にまとめ、全面改訂

A4判、80ページ
定価 2,200 円
(本体価格 2,000 円+税)
2022 年 10 月発行

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。
ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL: 019-624-2121

DOYU
I W A T E
同志会わて
2023
Vol.173

発行／岩手県中小企業家同志会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp